

シマハナアブ
厚浜 740410
スネアトクシヒゲガガンボ
内膳 850804
タイワンシロフアブ
八木 830830
タネバエ
市 830128
ツワブキケフカミバエ
厚浜 750406
フトハチモドキバエ

八木 930629
ベッコウガガンボ
八木 880831, 920603
マダラガガンボ
厚浜 780515
ミスジミバエ
中田 840421
ミツマタハマダラミバエ
大町 870422

(ふじとみ まさあき)

兵庫県ของサシガメ・マキバサシガメ (1) 高橋 壽郎²

まえがき

サシガメ (*Reduviidae*) は捕食性の比較的大型種をふくむグループで丈夫な口吻をもって刺されるとビックリする程痛い。昆虫や動物の体液を吸うので害虫の天敵として知られているものである。一方マキバサシガメ (*Nabidae*) は細長い体をして口吻が4節、ふ節が3節あり、半翅類は退化して無翅型になることがあるが膜翅部が退化した短翅型も多い。こちらも害虫の天敵として知られている。

日本に産するサシガメは日本産昆虫総目録 (1989) によると9亜科 35属 53種でその内本州に分布とあるのが 37種となっている。マキバサシガメの方は2亜科 13属 21種 (内本州分布は 13種)。

兵庫県下にサシガメ、マキバサシガメがどの位いるのか良く知られたサシガメがいたり美しいのがいたりするのだが一般的にはサシガメ、マキバサシガメを調べる人がほとんどなくてよくその分布状況がわかっていないのが現状だと考えられる。一応兵庫県産サシガメは現在 30種マキバサシガメ 9種がわかっているのでそれらの分布を中心に兵庫県産サシガメ・マキバサシガメを紹介してみたい。長くなるので分割発表させて頂く。

研究史

1883. Distant, W. L. First Report on the Rhynchota collected in Japan by Mr. George Lewis. Trans. ent. Soc. London. 1883:413-443

この報文は G. Lewis の採集品に基づいて研究されたものである。産地の記録もはっきりと示されている。図版もついている。兵庫県の異翅半翅類について Scott の論文 (1874, 1880) は同じく G. Lewis の採集品によるから兵庫、神戸産のものが当然あると考えられるが全く産地についての記述のない論文だけにこの Distant の論文が産地があり県産カメムシの一番古い文献として重要なものである。113種が記録

2: 〒652 神戸市兵庫区氷室町 1丁目44

されており 3 新属 33 新種の記載がふくまれている。兵庫或いは神戸と産地のついでいる種は 14 種でその内に 1 新種記載がありこれがサシガメであるから県下のサシガメの初めての記載種とゆうことになる (図もついでいる)。その種は次のとおりである。p.442. pl. XV. f.9. *Labidocoris insignis* Distant クロバアカサシガメで Kobe 産である。

1908. 井口宗平 兵庫県佐用郡産昆虫目録 (承前)。昆虫世界 12(132):335-337(ref. p.336-337)。

佐用郡下で採集された昆虫の種が 2000 種に達したとして膜、鱗、双、甲の 4 目を除く他のものを紹介すると発表の始まったのが明治 41 年 3 月号 (1906) の昆虫世界誌上においてである。(Vol.12. No.127:116-118)。異翅半翅目について 8, 9 月号 (Vol.12. No.132. 133) に発表されている。和名と学名のみが目録形式のもので若干の解説のついたものもあるが学名など現在の知見からすればかなり変わっている。また標本が現存しないので標本を見なければ同定に納得を得られないものが数多くふくまれている。日本人によりこのような早い時期にこの仲間のファウナがまとめ発表されたことは注目しなくてはならない。

サシガメ類は p.336-337. No.83-100 までの 18 種が記録発表されている。もちろん産地などの詳しいデータなどもないが一応佐用郡産として考えておく。18 種の内学名は変わってもどの種であるかわかるものが 14 種 (内 1 種はサシガメ科でなくマキバサシガメ科、キバネアシトサシガメである)(この中でオオサシガメ *Alcumena rapax* としてあるのはオオトビサシガメ *Isyndus obscurus* (Dallas.1850) のことではないかと思う)。全くわからないものが 4 種ある。その内イグチサシガメ *Onococephalus Iguchi* については問題がある。井口氏の次の論文のところで詳しく述べることにする。

1908. 井口宗平 有吻目の四新種に就いて。昆虫世界 12(136):504-507。

表題のごとく松村松年博士に送られたる有吻目の中に 4 種の新種がありいずれも Iguchi なる種名を採用されたとしてこれらをこの報文で紹介している。いずれも今迄の佐用郡産目録中に編入して掲載されしも” 原稿に削除を加えられしがためそれらが新種なるや否や判明しがたき次第にて” と冒頭に記されている。今回紹介されているイグチサシガメ (命名者名間違っている) も前報文で学名を *Onococephalus Iguchi* として収録されているが本種の原記載は 1913 年の松村松年博士の新日本千虫図解第一になるので収録するのであれば *Onococephalus* sp. としておこなうてはいけない。今回この種については記載文がついでいる。これではこの報文が原記載になってしまうこのあたりもう少々注意して貰わねば困る。いかに松村博士から学名を教えて貰っているからとて原記載が発表されていない前にこのような記載発表は困る。当然掲載紙にも責任がある。もっともこのイグチサシガメの正体が現在ではわからないサシガメの一つでタイプ標本を検しなくてははいけない種である。編集付記として今回の 4 種の内標本を送られたるイグチヒラタカメムシはノコギリヒラタカメムシであり、イグチヒシウンカはクロヒラタヒシウンカと同一種であるとされ、イグチサシガメは標本を送って来ていないと記されてある。

1909. 井口宗平 兵庫県佐用郡産半翅類目録, 追加. 昆虫世界 13(141):205-207.
 昆虫世界 No.131-133 に発表した佐用郡産半翅類目録に新たに松村松年博士により 1 新属, 7 新種を検出されたとして追加目録 29 種を上記表題にて発表された. その内 5 種サシガメがある次にそれらを掲げておく.
19. コバネマキバサシガメ (新種) *Reduviolus (Nabis) apicalis* Mats. = *Nabis (Milu) apicalis* (Matsumura, 1913) (マキバサシガメ科)
20. ハナダカサシガメ (新属・新種) *Diaspidioides iguchi* Mats.
21. ハネナシサシガメ *Anitus dilatus* Mats. = *Coranus dilatatus* (Matsumura, 1913)
22. ヒゲナガサシガメ *Endochus atolianus* Horv. = *Endochus stalianus* Horváth, 1879
23. イグチベニサシガメ *Haematoloecha iguchi* Mats.
- 上記の内ハナダカサシガメとイグチベニサシガメがよくわからない種である. 松村博士が何処に記載されたのか知らない. 福井玉夫の報文 (1926, 1927) にも日本産昆虫総目録 I (1989) にも該当する種が見あたらない. 記載されているのであればタイプ標本を調べる必要がある. 他の種は学名は変わるがわかる種である (1 種マキバサシガメ科をふくむ). 前にものべたように新種記載がされていない状況下で学名を表示して記録を発表するということはいくはない.
1913. 松村松年 新日本千虫図解. 第一巻 (菅原社).
 井口宗平氏が 1908 年に *Oncocephalus iguchi* Matsumura イグチサシガメを紹介されたが本書 p.166, t.15, f.9 に *Ectrychotes iguchi* Matsumura なる学名で図説されておりこれがこの種の原記載になるのであるがタイプ標本を調べないとなどのようなサシガメなのかよくわからない種である.
1926. 福井玉夫 内地産食虫椿象科図説 (一). 昆虫 1(1):7-8. pls.1,2.
 アシナガサシガメ (*Schidium marcidum* (Uhler)) の播磨からの記録がある. 最もこれは松村博士 (1913) からの引用である.
1926. 福井玉夫 内地産食虫椿象科図説 (二). 昆虫 2(1):1-6. pls. 1,2.
 p.13 イグチアカサシガメ *Ectrychotes iguchi* Matsumura の記載あり. 播州産 井口宗平氏採集とある (これも松村博士, 1913 からの引用である).
1938. 谷口和義 クロトビサシガメの分布に就いて. 博物研究 (III):14-15.
 神戸市本山, 六甲山麓, 摩耶山麓, 箕谷, 伊丹軍行橋付近の産をまとめる.
 本種はクロトビイロサシガメ *Oncocephalus breviscutum* Reuter, 1882 のこと.
1942. 高橋壽郎 神戸高取山産の異翅目. 昆虫界 10(97):171-176.
 11 科 61 種を記録 (内サシガメ科 8 種, マキバサシガメ科 3 種). 若干同定間違いもあり, 学名も変わるものがある.
1951. 黒佐和義 クロサシガメの生態特に周年経過. 新昆虫 4(10):34-35.
 京阪神地方に産すとあり具体的産地は示されていない. 生態として京阪神地方では年一回発生で成虫態で越冬し産卵は春季に行われ, これより孵化した幼虫は 8 月に成虫になるものと推定されると.
1954. 山本義丸 兵庫県丹波地方の異翅類目録. 兵庫生物 2(4/5):216-218.

水上郡と一部多紀郡において採集された異翅半翅類の目録で 29 科 147 種が記録されている。個々の種についての採集データはほとんどなく若干の注目種についての解説がついている。サシガメ科は 15 種 (No.102-116), マキバサシガメ科 3 種 (No.117-119) が記録されている。

1958. 山本義丸 兵庫県水上郡昆虫目録。Natura 特別号, 水上の自然 第3集, p.113-119. 水上郡下のみのものであるが異翅亜目 28 科 153 種記録されている (p.113-119). 残念ながら詳しいデータはほとんど無く若干の注目種に注がついている。珍しい種の記録がわりとある。
1963. 黒佐和義 セシリアシナガサシガメについて。Rostria (6):25-26.
水ノ山での記録及び尼崎での観察記録あり。
1964. 黒田礼文 扇ノ山のカメムシ類。兵庫県農科大学生物研究部々誌 (4):25-26.
扇ノ山産 11 種のカメムシの記録 (前年辻氏の記録した 5 種を加えて 16 種の目録になっている)。但しサシガメはトビイロサシガメ 1 種のみでの記録である。
1965. 高橋 匡 出石郡昆虫目録 第2報。VITA (2):1-16.
出石郡産異翅半翅類 10 科 45 種の記録がある (全部採集データがついている)。サシガメ科は 8 種, マキバサシガメ科 1 種がふくまれている。
1968. 田中篤夫・殿界和男 ヨコツナサシガメの新産地。昆虫と自然 3(10):35.
神戸市道場からの記録。兵庫県下からの本種の記録として文献に現れた初めての記録になると考える。
1969. 佐々木基之 甲陵中学附近のカメムシ類。甲陵生物 (4):14-15.
西宮市甲陵中学校付近のカメムシ類 7 科, 34 種が記録されているが和名だけで学名無し。サシガメは 5 種記録されている。
1971. 井上智雄 本州にいたヨコツナサシガメ。昆虫と自然 6(1):28.
西宮市名塩 (alt. 100m), 木ノ元 (alt. 100m) での記録。
1971. 日浦 勇 ヨコツナサシガメの分布。Rostria (21):56-97.
兵庫県下での記録もふくまれている。
1972. 桂 孝次郎 近畿地方北西部のヨコツナサシガメの記録。Nature Study 19(8):90.
兵庫県下での記録もある。
1973. 宮武睦夫・友国雅章 本四架橋ルートの島々の昆虫相。本州四国連絡橋に伴う周辺地域の自然環境保全のための調査報告書, pp.64-68 (国立公園協会刊)。
カメムシ類は 18 科 47 種が記録されている。全部淡路島からの記録 (兵庫県関係の記録として)。サシガメ科はマダラカモドキサシガメ, シマサシガメの 2 種のみ。
1973. 宮武睦夫・友国雅章 本四架橋ルートの島々の昆虫相 (その II)。本州四国連絡橋に伴う周辺地域の自然環境保全のための調査報告書 (その 2), pp.79-80 (国立公園協会刊)。
カメムシ類は 8 科 20 種が記録されておりいずれも淡路島からの記録 (兵庫県関係の記録として)。サシガメ科はトビイロサシガメ (*Oncocephalus* sp.) 1 種のみ。
1974. 高橋壽郎 兵庫県の異翅亜目 (I)。きべりはむし 2(2):1-7.
県関係の異翅亜目に関する文献をまとめた。

1974. 神戸女学院 岡田山の自然. 神戸女学院百周年記念「岡田山の自然」出版委員会刊.
六甲山系の東端、甲山の東に位置する岡田山（西宮市岡田山）の生物目録の中に
カメムシ科 17 種が記録されている（内サシガメ科 2 種、マキバサシガメ科 1 種
あり）。
1974. 川澤哲夫 淡路島の水田および雑草地に発生するカメムシ類. げんせい (27):11-14.
9 科 24 種のカメムシが生態と共に記録されている。その中でハネナガマキバサシガ
メ 1 種が記録されている（北淡町富島，洲本市生石）
1975. 高橋 匡 豊岡高等学校昆虫標本目録（第 1・2 報）。兵庫県立豊岡高等学校生物
教室刊。
但馬地方で採集され保管されている標本目録で第 1 報でカメムシ類 16 科 67 種，第
2 報で 6 科 11 種記録されている。サシガメ科は 6+1 種，マキバサシガメ科 1 種が
ふくまれている。全部採集データがついている。
1975. 堀田 久 淡路島のカメムシ類について. Parnassius (14):4-6.
7 科 21 種記録されており，サシガメ科は 3 種記録されている。
1975. 高橋壽郎 兵庫県の異翅亜目 (3). きべりはむし 4(1/2):1-7.
サシガメ科 23 種，マキバサシガメ科 7 種を記録報告した。
1975. 高橋 匡 豊岡高等学校昆虫標本目録（第 3 報）。兵庫県立豊岡高等学校生物教
室刊。
異翅半翅目 10 科 19 種記録されており内サシガメ科は 2 種記録されている。
1976. 高橋 匡 豊岡高等学校昆虫標本目録（第 4 報）。兵庫県立豊岡高等学校生物教
室刊。
カメムシ科は × 科 15 種の記録がある。サシガメ科 *Polytorus* sp. ユミアシナガカ
メムシの一種は省いたとある（立川周二氏同定）。
1977. 広地 昇・奈良隆史・木戸和伸 三熊山の昆虫について. Parnassius (17):9-11.
カメムシ類は 15 科 25 種記録されている。サシガメ科は 2 種ふくまれている。
1977. 日浦 勇 原色日本昆虫図鑑，下巻。(全改訂新版，保育社・大阪)。
兵庫県産サシガメ 3 種がカラーで図説されている。
pl.31. f.442. p.118. シマサシガメ *Sphedanolestes impressicollis* Stål 1963 年
8 月 神崎郡栃原谷。
pl.31. f.444. p.118. ヨコツナサシガメ *Agriosphodorus dohrni* Signoret 1964
年 4 月 川西市笹部。
pl.31. f.445. p.118. モモフトトビイロサシガメ *Oncocephalus femoratus*
Reuter 1961 年 4 月 神戸市垂水。
1978. 堀田 久 淡路島のカメムシ類 (II). Parnassius (19):1-3.
主として洲本市内産カメムシ 9 科 24 種の記録。サシガメ科は 2 種ふくまれている。
1978. 高橋壽郎 神戸市内におけるハリサシガメの産地. きべりはむし 6(1/2):24.
1978. 仲田元亮 能勢の昆虫 I. B5, 405p. (自刊・単行本)。
17 科 96 種の半翅目が記録されており各種についての詳しいデータがついている。
サシガメ科は 11 種が記録されている。

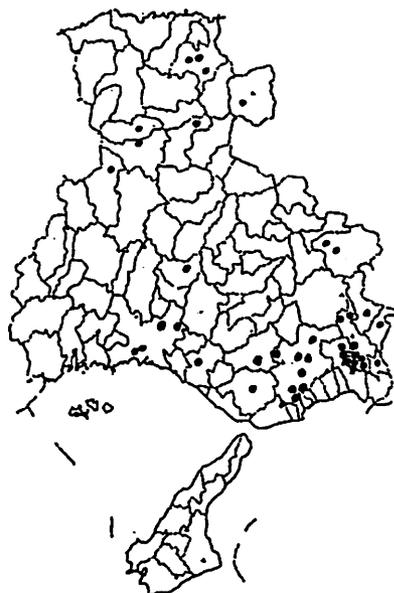
1979. 小林桂助 県下の採集例。きべりはむし 7(2):30。
 ヨコヅナサシガメの養父郡養父町，多紀郡西紀町の記録がある。
1980. 環境庁 日本の重要な昆虫類 近畿版。B5. 624p。
 指定昆虫ヨコヅナサシガメの兵庫県下の産出状況の解説あり (p.59)。
1980. 奥谷禎一 宝塚市の昆虫類。宝塚市史 Vol. 7:512-523。
 ヨコヅナサシガメの解説あり。
1980. 高橋壽郎 兵庫県下におけるヨコヅナサシガメの分布。きべりはむし 9(1):18-20。
1981. 相坂耕作 宍粟郡波賀町引原でヨコヅナサシガメ発見。姫昆サロン ニュース (19):2。
1982. 宮本正一 日本の自然環境と昆虫，タガメおよびその他の異翅半翅類。遺伝
 36(7):18-22。
 ヨコヅナサシガメの兵庫県下の分布状況説明あり。
1983. 高橋壽郎 ヨコヅナサシガメ，兵庫県大百科事典。下巻 (p.1252) (神戸新聞出版
 センター)。
1984. 河上仁之 伊丹市昆虫目録 (1)。伊丹の自然 (1):22-32。
 カメムシ類は 15 科 37 種記録あり。サシガメ科は 4 種ヨコヅナサシガメの記録もある。
 全般に詳しいデータはほとんどの種についていない。
1985. 河上仁之 伊丹市昆虫目録 (2)。伊丹の自然 (2):27-32。
 カメムシ科 5 種の記録があり内サシガメ科 2 種記録されている。
1985. 新家 勝 ヨコヅナサシガメ，ヨツボシケシキスイを捕食す。きべりはむし 13(2):44。
 川西市芋生にて。
1985. 森田眞澄 ヨコヅナサシガメ兵庫県南部の記録。きべりはむし 14(1):20-21。
 神戸市北区淡河町論破山，三木市伽耶院，加古川市八幡神社，姫路市仁豊町，姫路
 市広畑区大町，広畑区鶴町。
1986. 加藤信一郎 宝塚市内におけるヨコヅナサシガメの採集記録。きべりはむし
 14(2):34。
1986. 新家 勝 宝塚市内におけるサシガメ 2 種の採集記録。きべりはむし 14(2):34。
 ヨコヅナサシガメ，アカマキバサシガメの記録。
1990. 山川 昇 ヨコヅナサシガメ。日本の生物 4(7):72。
 明石市大久保町 1990 年 4 月 28 日羽化直後の幼虫。
1991. 高橋壽郎 ヒゲナガサシガメ，ベニモンマキバサシガメ共に氷上郡山南町に産す。
 きべりはむし 19(1):26-27。
1991. 大野正男 日本の帰化昆虫 (2)，ヨコヅナサシガメ。自然史研究雑誌 (1):19-32。
 兵庫県下の分布について詳しく解説されている。
1992. 東 正雄 カメムシ目。宝塚の昆虫 I:58-147, B5。(宝塚教育委員会刊)。
 カメムシ類は 25 科 No.131-252, 122 種各種白黒写真をつけ詳しい産地とか生態，
 形態などを記されている。サシガメ科は 15 種，マキバサシガメ科は 1 種，これら
 は新家 勝氏の解説も入っている。
1994. 新家 勝 宝塚のカメムシ目 (補遺)。宝塚の昆虫 VII:297-302, 376。

宝塚のカメムシ目補遺として6科8種が記録されている。サシガメ科、マキバサシガメ科は各1種ずつ追加解説されている。

Family Reduviidae サシガメ科
Subfamily Harpactorinae サシガメ亜科

1 *Agriosphodorus dohrni* (Signoret, 1862) ヨコヅナサシガメ

帰化昆虫として良く知られているサシガメであり大きくもありません。なかなか美しい。兵庫県下の分布については筆者も一度まとめ発表したことがある(1981)。大野正男教授は全国的視野にたつての報文を発表されている(1991)。兵庫県下での分布は(分布概要図参照)神戸並びにそれから東にかけての地域には広く分布しており、播磨地域も分布がわかっているが西播磨からの記録が見られないし県の中央部にはほとんど記録が見られず但馬地方に僅かに分布記録がある。このあたりの分布状況が良くわからない。それと淡路島の記録がない。四国での記録はあるのであるから分布しているのではないかと考えたりしている。



兵庫県におけるヨコヅナサシガメの記録地点

産地：川辺郡猪名川町槻並(10exs., 4・V・1979, 第5令幼虫)。川西市笹部〔日浦, 1971, 1977, 仲田, 1978〕。伊丹市昆陽池西台〔河上, 1984〕。宝塚市千刈, 大原野中部〔桂, 1973〕, 清荒神(1♀, 22・V・1975)〔加藤, 1986〕, 山本1丁目, 南口2丁目, 宝塚大橋〔新家, 1986〕, 山本, 宝梅1丁目~寿楽荘, 野上町, 宝塚大橋, 烏ヶ脇, 波豆, 武田尾溪谷〔東, 1992〕。西宮市名塩, 木ノ元〔井上, 1971〕。神戸市再度山(1♀, 10・VI・1978), 道場〔田中, 殿界, 1968〕, 下谷上(1ex., 7・XI・1979, etc.), 北区淡河町論破山〔森田, 1986〕, 八多町屏風(2exs., 4・VI・1993, etc.), 須磨区多井畑(1ex., 23・V・1990)。三木市伽耶院〔森田, 1986〕。三田市〔鈴木, 1994〕。加古川市八幡町八幡神社〔森田, 1986〕。姫路市南山田藤の木山〔相坂, 1981〕, 仁豊野, 広畑区大町, 鶴町〔森田, 1986〕, 増位山々麓〔大野, 1991〕。神崎郡神崎町猪篠〔桂, 1973〕。宍粟郡波賀町引原〔相坂, 1981〕。多紀郡篠山〔奥谷, 1971〕, 西紀町〔小林, 1979〕。豊岡市滝, 森〔桂, 1973〕, 九日市〔高橋, 1975〕。出石郡出石町寺坂〔高橋, 1965〕。養父郡養父町藪〔桂, 1973〕, 養父町〔小林, 1979〕, 関宮町関宮, 杉ヶ沢付近〔相坂, 1981〕。

2 *Coranus dilalatus* (Matsumura, 1913) ハネナシサシガメ

山地の植物の根きわで生活し, 小さな昆虫を捕食するとある。分布も北海道, 本州, 極東ロシア, 朝鮮半島, 中国と広い。ただ残念なことには兵庫県下では佐用郡の記録以外全く記録がない。筆者も県下では未採集である。

1)産地の記録は〔〕で示したものは記録からの引用。()は筆者の採集品で多数採集の場合1例のみ示しetc.を入れて他を省略。標本は県立人と自然の博物館に保管。

これは調査の不充に原因すると考えられる。

産地：佐用郡〔井口，1909〕。

3. *Cydnocoris russatus* Stål. 1866 アカサシガメ

朱赤色で草むらに普通に見られるサシガメ。鱗翅類の幼虫やハムシなどの小さい昆虫を捕食する。

産地：川西市横地，笹部〔仲田，1978〕。宝塚市満願寺～花屋敷，切畑，香合新田〔東，1992〕。西宮市船坂 (lex.. 11・IX・1987)。神戸市六甲山 (lex.. 15・VII・1956)，烏原 (lex.. 17・V・1963. etc.)，藍那 (lex.. 28・VI・1993. etc.)，高取山〔高橋，1942〕，山の街 (lex.. 29・IV・1959. etc.)，丹生山 (lex.. 3・V・1958)，太山寺 (lex.. 6・V・1957)，下谷上 (lex.. 29・VIII・1979)，伊川谷 (lex.. 7・VI・1988)，八多町屏風 (lex.. 15・IV・1993)。三木市口吉川町原 (lex.. 26・IX・1986)。小野市山田町 (lex.. 16・V・1987. etc.)。加東郡東条町 (lex.. 29・IV・1984. etc.)，社町三草 (lex.. 22・V・1989)。加西市法華山一乗寺 (lex.. 23・V・1965)。多可郡市原 (3exs.. 24・IX・1972)，白山 (lex.. 27・V・1973)，三谷 (lex.. 4・IX・1976)。龍野市神岡 (lex.. 4・VI・1988. etc.)。佐用郡〔井口，1908〕。相生市三濃山 (lex.. 1・VI・1974)。多紀郡西紀町 (lex.. 20・IV・1982)。水上郡〔山本，1954. 1958〕。出石郡出石町〔高橋，1965〕。宍粟郡水谷 (lex.. 17・VII・1981)，赤西 (lex.. 21・V・1979)，音水 (lex.. 16・VII・1972)。

4. *Endochus stalianus* Horváth. 1879 ヒゲナガサシガメ

山地の樹上で生活しているがあまり多くなく，灯火にも飛来するとある〔友国他〕。兵庫県下の記録も大変少ない。

産地：宝塚市西谷西部〔東，1992〕。水上郡〔山本，1954. 1958〕，山南町 (lex.. 5・VII・1990)。佐用郡〔井口，1909〕。

5. *Isyndus obscurus* (Dallas. 1850) オオトビサシガメ

山地の樹上によく見かける，10月頃道路の側溝などに多くいることがある。成虫は樹皮の下や樹の空洞に群がって越冬する。刺されると激しい痛みがある。

県下にも広く分布していると考えられる。

産地：宝塚市烏ヶ淵，西谷，大原野，西部，宝梅町，寿楽荘〔東，1952〕。神戸市高取山〔高橋，1942〕，神戸大橋上 (1♂，8・XI・1984)，山の街 (lex.. 17・V・1953)，藍那 (6exs.. 31・X・1978. 3exs.. 10・XI・1978)，八多町屏風 (lex.. 12・V・1993. lex.. 4・VI・1993)。佐用郡〔井口，1908〕。多可郡笠形山 (lex.. 6・XI・1976)。水上郡〔山本，1954. 1958〕。豊岡市〔高橋，1975〕。城崎郡城崎町 (9exs.. 25・X・1978)。

6. *Pohodius armatissimus* Stål. 1859 トゲサシガメ

和名のとおり体や脚に多数の棘をもつサシガメである。兵庫県下での記録がほとんど知られていない。もつといると考えるのだが。

産地：宝塚市南口2丁目〔新家，1986，東，1992〕。出石郡但東町中野〔高橋，1965〕。

7. *Rhynocoris ornatus* (Uhler. 1896) アカヘリサシガメ

黒色，前胸背後葉の後，側縁と腹部の外縁が赤いことでよくわかる種である。山地の植物上で発見され鱗翅類の幼虫やハバチなどの小さな昆虫を捕食する。

県下でもわりと記録が知られていない種である。

産地：佐用郡〔井口，1908〕。多可郡三谷 (lex.. 8・VIII・1975)。水上郡〔山本，1954〕。高源寺 (lex.. 16・VI・1994)。養父郡水ノ山 (lex.. 22・VII・1958)。

8. *Sphedanolestes impressicollis* (Stål. 1861) シマサシガメ

黒色の地に黄白色の斑紋がある。樹上や草むらに多い。ルリハムシ、ヨモギハムシ、アオバネサルハムシ、ヒゲナガマルノミハムシ、アザミカミナリハムシ、ナナホシテントウなどの甲虫類や鱗翅類などの小さい昆虫を捕食する。県下に広く分布している。

産地：洲本市先山〔友国，1973，堀田，1978，前川，1989〕，三熊山〔堀田，1975〕。宝塚市光明町，池田〔東，1992〕。西宮市船坂〔2exs. 5・VI・1987. etc.〕。神戸市高取山〔高橋，1942〕，山の街〔lex. 29・V・1976〕，五社〔lex. 22・V・1980. etc.〕，藍那〔lex. 27・VI・1978. etc.〕，烏原〔2exs. 2・VI・1974. etc.〕，芦谷溪谷〔lex. 11・VI・1982〕，多井畑〔lex. 19・VI・1990. etc.〕八多町屏風〔2exs. 4・VII・1989. etc.〕。三木市細川中〔lex. 30・V・1985〕。美濃郡吉川〔lex. 6・VI・1985〕，吉川町奥山〔2exs. 10・V・1986〕。小野市山田〔lex. 23・VI・1987〕，来住町〔lex. 30・V・1991〕。加東郡社町三草〔lex. 14・VII・1989〕。飾磨郡雪彦山〔lex. 14・VII・1957〕。多可郡三谷〔2exs. 19・IV・1975. etc.〕，烏羽〔lex. 5・VII・1975〕。神崎郡板原谷〔日浦，1977〕，大河内町川上〔2exs. 18・VI・1977〕。龍野市神岡〔lex. 20・V・1988. etc.〕。揖保郡新宮町福原〔lex. 10・VI・1992. etc.〕。佐用郡〔井口，1908〕。相生市三濃山〔lex. 6・VII・1973. etc.〕。宍粟郡水谷〔lex. 17・VII・1981〕，音水〔lex. 13・VII・1958. etc.〕，赤西〔2exs. 3・VI・1979〕。氷上郡〔山本，1954，1958〕，山南町〔lex. 11・VII・1980〕。美方郡属ノ山〔高橋，1975〕。

9. *Velmus nodipus* (Uhler, 1860) ヤニサシガメ

体は黒く全体が樹脂状の粘着物でおおわれていることが多い。マツの樹で生活し、小さい昆虫を捕食する。終令幼虫は樹皮の間に群生して越冬し、5-6月に新成虫が出現する。

兵庫県下に広く分布し普通に見られるサシガメである。

産地：川辺郡猪名川町上阿古谷〔仲田，1978〕。川西市南口2丁目〔新家，1986〕。宝塚北部西谷，切畑，宝塚大橋上，宝梅1丁目，西谷西畑西部，大峰山〔東，1992〕。西宮市船坂〔2exs. 28・V・1987. etc.〕。神戸市六甲山〔2exs. 16・VII・1962〕，烏原〔lex. 5・V・1968. etc.〕，石井ダム〔lex. 18・X・1991〕，山の街〔lex. 6・V・1962〕，谷上〔2exs. 29・IV・1958〕，藍那〔lex. 14・VI・1978. etc.〕，高取山〔高橋，1942〕，垂水〔lex. 10・V・1985〕，逢山峽〔lex. 27・VI・1987〕，伊川谷〔3exs. 13・V・1988〕，多井畑〔lex. 23・V・1990〕，八多町屏風〔3exs. 6・V・1993. etc.〕。小野市来住町〔lex. 5・V・1991〕。加東郡社町三草〔lex. 17・V・1987. etc.〕。飾磨郡雪彦山〔lex. 14・VII・1957〕，家島〔lex. 26・V・1978〕。多可郡白山〔lex. 3・V・1973〕，三谷〔2exs. 19・IV・1975. etc.〕，烏羽〔lex. 1・VI・1975. etc.〕。相生市三濃山〔2exs. 7・V・1973. etc.〕。揖保郡鷺嶋山〔2exs. 27・V・1970〕，新宮町福原〔lex. 15・V・1992. etc.〕。佐用郡〔井口，1908〕，大撫山〔lex. 15・III・1975〕。宍粟郡音水〔lex. 10・V・1970. etc.〕。氷上郡〔山本，1954.1958〕。豊岡市杉ヶ沢〔高橋，1975〕。

(たかはし としお)